

[調査結果のまとめ]

1 学力調査結果について

(1) 小学校（小6）においては、大山町全体の平均正答率は、「国語」「算数」とも全国よりやや高く、県より高い結果であった。

○「国語」では、全国的に、「文章を引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」や「情報と情報との関係付けの仕方」、「図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力」はかなり低い結果であったが、大山町においてはこの分野はかなり高い結果となった。今年も、学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」の記述問題（書くこと）においては、正答率が高い結果になった。

○「算数」では、立方体の体積を求める問題では 84.8% とかなり高い正答率である反面、体積の意味について理解しているかどうかの問題では 48.9% の正答率であった。異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題はかなり高い結果で、国語の力との関連が大いに関係していることがうかがえる。

(2) 中学校（中3）においては、大山町全体の平均正答率は、「国語」は全国よりやや低く、県とはほぼ同等、「数学」は全国よりやや低く、県よりやや高い結果となった。

○「国語」においては、全国的に「ら抜き言葉」に関する設問は正答率が高かったが、大山町は国や県より低い結果となった。「可能」の意味を表す助動詞の働きを理解できていなかった。また「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うことができる」を見る設問でも、61.8% と低い結果であった。自分の意見を書く問題で、無解答率が 22.5% と高く、文章を書くことに抵抗を持つ生徒が多いことがわかる。

○「数学」は、「反比例の表から y の値を求める」設問の正答率が国や県より高かった。また「説明する、証明する」3つの設問の無解答率がそれぞれ 35.0%、44.0%、27.0% とかなり高い結果となった。また「 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で表す」設問では全国と比較して 10 ポイント低い結果となった。

○「英語」はオンライン方式で実施し、統計理論に基づき算出した IRT（項目反応理論）スコアは 477 点で、国より 22 点低く、県より 8 点高い結果となった。与えられた情報に基づいて英作文で説明することに課題があった。「聞くこと」については英語の知識をコミュニケーションで活用できる技能に課題が残った。「読むこと」は社会的な話題の要点を捉え、考えを書くことに課題が残った。「書く」では、日本語で説明することは概ねできているが、英作文で説明することに課題があった。

2 質問紙調査結果について

(1) 小学校調査

○肯定的回答の割合が高かったのは、「先生はよいところを認めてくれる」92.8%(県 92.5%)、「普段の生活で幸せな気持ちになれるときがある」92.9%(県 91.3%)、「地域や社会のために何かしたいことはある」は80.6%(県 79.4%)で、対象児童が異なるものの3年連続高い数値を維持している。一方で「困りごとなどを先生や学校の大人に相談できる」と回答した児童は、57.2%(県 69.6%)で昨年同様の数値であった。「学級において違う意見を言っても否定されないと思う」は59.2%(県 69.7%)と低い結果であった。

○学習状況では、「授業の内容がよくわかる」と肯定的回答した児童は、国語73.5%(県 79.9%)、算数84.7%(県 74.7%)であった。平日1時間以上勉強していると答えた児童は42.9%(県 48.2%)、休日1時間以上勉強していると答えた児童は43.9%(県 43.0%)であった。休日の勉強時間を5年前の調査と比較してみると、25ポイントの減少傾向が見られた。一方で、平日にSNSや動画視聴などを2時間以上していると答えた児童は61.2%(県 60.9%)であり、これも5年前と比較すると35ポイントの増加傾向が見られた。取組時間と各教科の平均正答率の関係をみると、平日、休日とも勉強を1～3時間している児童の正答率が一番高い結果となっている。またSNSや動画視聴に接している時間が長いほど、各教科の正答率が低くなっている。

(2) 中学校調査

○肯定的回答の割合が高かったのは、「朝食を毎日食べている」92.8%(県 92.4%)、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」86.6%(県 84.1%)、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」93.8%(県 93.6%)で、概ね基本的な生活習慣は身につけていると言える。逆に低かった質問は、小学校同様、「困りごとなどを先生や学校の大人に相談できる」55.6%(県 74.2%)であった。

○学習状況では、「授業の内容がよくわかる」と肯定的回答した生徒は、国語72.2%(県 74.8%)、数学68.0%(県 70.0%)、英語68.1%(県 59.0%)であった。平日1時間以上勉強していると答えた生徒は55.7%(県 56.4%)、休日1時間以上勉強していると答えた生徒は45.3%(県 51.4%)であった。休日の勉強時間を5年前の調査と比較してみると30ポイントの減少傾向が見られた。一方で、平日にSNSや動画視聴などを2時間以上していると答えた生徒は72.1%(県 77.6%)であり、これも5年前と比較すると37ポイントの増加傾向が見られた。取組時間と各教科の平均正答率の関係をみると、勉強を平日は1時間以上、休日は3時間～4時間している生徒の正答率が一番高い結果となっており、小学校調査と同様にSNSや動画視聴に接している時間が長いほど、各教科の正答率が低くなっている。